

# あおぞら通信



## 第2回 聖母の家学園福祉会 理事会・総会 報告

聖母の家学園福祉会の理事会・総会を5月17日（水曜日）に開催しました。設立理事会・総会以来の2回目となります。内容は、平成28年度の事業報告と会計報告、平成29年度の事業計画と予算の審議です。聖母の家学園福祉会が設立したのが、昨年の12月26日で年度末を3月31日としていますので、平成28年度は、約3ヶ月でした。短い年度でしたので具体的な活動はできませんでしたが、次年度につながる準備は整いました。この紙面にて報告いたします。

### サービス事業所開設への準備

昨年度は、就労継続支援B型事業と就労移行事業をあわせた多機能型事業所を開設することを目標にしてきました。その理由は、聖母の家学園とともに発達支援や地域支援を継続して進められること、今年度からスタートした聖母の家学園 高等部専攻科NEXT（4年制の専攻科）からサービス事業所での支援、そしてその先の支援イメージしやすいことからです。理事会と総会では、引き続きこの方向で準備をすすめていく確認をしました。

いずれにしても聖母の家学園福祉会の理念である「共生社会の実現」と利用者を中心に据えていかなければなりません。

### 地域啓発事業

これは聖母の家学園支援センターふれあいが企画する学習会活動を合同で行う事業です。今年度から専攻科NEXTの生徒たちも一緒に参加することになりました。運営者の視点では地域へのPRを、支援者の視点では大人になったNEXT生徒たちの学びを取り組んでいきます。地域の人たちと障がい者が大人になってからも学び続けられる「生涯教育」を福祉会は考えていきます。

### 特別支援学校との

#### 教育連携事業

『聖母の家学園』と『卒業後の自立と社会参加をすすめる会』では、「ミニコンビニ事業」を展開しています。お菓子やカップ麺を中心とした商品を地域の企業様で販売しています。現在は十五の企業様に協力いただいております。今後も増えていく予定です。専攻科NEXTでの授業で2つの企業を担当しています。

また「いらっしゃいマルシェ」では味噌や醤油の販売をすすめる会が行っています。こちらは専攻科1・2年生が総合の授業でお客様へのお届け準備をすすめています。仕事への準備・練習として貴重な機会となっています。

### 事業に係る物品販売など

毎年11月に、聖母の家学園がある四日市市内部地区の地区文化祭へ出店しています。地区の子どもたちに大人気のつりゲームは、定番です。今年も準備をしていきます。ここでも卒業生や在校生がボランティアとして活躍してくれています。販売を通じてコミュニケーションをとることが楽しいようです。生徒や卒業生が楽しんだりがんばったりする姿を作ることが、物品販売の売上に勝る利益になると思います。

### ロゴマークが決まりました

本紙のタイトルの横に今号から添付いたしました。このマークは、昨年度に公募したところ山下清文さん（大分県）から応募があり採用しました。安心感を与える緑色を基調に、みんなを受けとめるように枝が伸びています。そして情熱の赤が中心にあります。

## 財産目録

平成29年3月31日現在

1. 資産の部	金495,940円
(1) 流動資産	
1 現金	金5,940円
2 普通預金	金490,000円
(2) 固定資産	
1 基本財産	
定期預金	
2 その他固定資産	
2. 負債の部	金0円
(1) 流動負債	
(2) 固定負債	
3. 差引正味財産	金495,940円

上記は財産目録に相違ない。

特定非営利活動法人 聖母の家学園福祉会  
理事長 伊藤 春樹

## 会計報告

聖母の家学園福祉会の設立時は、資産0円でしたが、平成28年度に「卒業後の自立と社会参加をすすめる会」より50万円の寄付をいただきました。そこから事務費・通信費などの支出をしました。事業収益・理事報酬・従業員報酬がどれも0円ですので税の減免を三重県と四日市市から受けています。

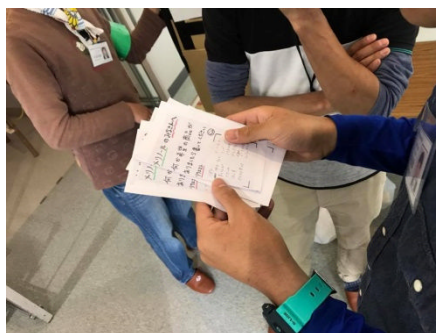
平成31年度春の障害者サービス事業所開設へ向けて資産を準備していきます。

平成29年5月16日に帳簿、領収書綴り、通帳などを照合し、左記に相違ないことを確認しました。

監事 大橋里栄

## 特別支援学校での教育から、障害者サービス事業所での支援へ

聖母の家学園福祉会は、障害者サービス事業所の開設をめざしています。数年前から特別支援教育や地域支援においては自治体主導で「とぎれのない教育」や「とぎれのない支援」を大切に取り組んでいるところが増えてきました。では『特別支援学校聖母の家学園』と『聖母の家学園福祉会がつくるサービス事業所』は、どのようなとぎれのない教育や支援が望ましいのでしょうか。いま聖母の家学園高等部専攻科NEXTでは、ミニコンビニ事業を卒業後の自立と社会参加をすすめる会と共に運営しています。生徒のミニコンビニでの作業は、9つの工程のうち、商品準備・納品書の作成・納品・売り上げの確認・返品報告書の作成を行っています。この2ヶ月は目に見えるわかりやすい作業に取り組んできました。この2ヶ月で生徒から、「お菓子がたくさん売れてうれしい」という気持ちに加え「お客様の声聞きたい」「何から売っていくのか見てみたい」「お客様のリクエストにこたえたい」「お客様とあいさつがしたい」という気持ちが出てきました。お客様とのコミュニケーション。これこそが仕事の醍醐味ではないでしょうか。聖母の家学園は職業訓練機関ではありませんが、自分の持てる力を駆使して、仲間とアイデアを出しあい工夫をして相手に真心を伝えていくことができれば、きっと立派な社会人となっていくことでしょう。就労継続支援B型事業所や就労移行事業所では、働くことに焦点を絞り、より専門的に個別のニーズにあった支援をこのミニコンビニ事業を通じて行っていくことも考えられます。聖母の家学園福祉会は、4つの柱「つくる」「そだつ」「くらす」「つなぐ」を具体的に実践できる準備をすすめています。



写真左：四日市メリノール学院さまの職員室に設置したミニコンビニ ていねいに陳列します。

写真中：リクエスト用紙に書かれたお客様の要望 この声がうれしいのです。

写真右：商品準備 正確に数えることが求められます。